

明倫短期大学 卒業後3年次動向調査結果報告(2021年度実施:抜粋版)

1.調査の概要

【調査目的】

卒業後3年経過した現在の勤務状況、及び社会人としての立場で在学時の教育課程等を振り返り、大学教育の成果がどのように役立っていたかを知るために意見を求める必要がある。この調査を元に改善の方向性を検討する上で、客観的な評価指標の一つとして用いられることが期待される。

【調査対象】

2017年度卒業生歯科技工士学科 29名、歯科衛生士学科 35名の計 64名

【調査方法】

アンケートの調査依頼を郵送や e-mail で配信をし、オンライン入力フォームで回答をお願いした。

【実施時期】

2021年10月8日～10月22日

【回答者】

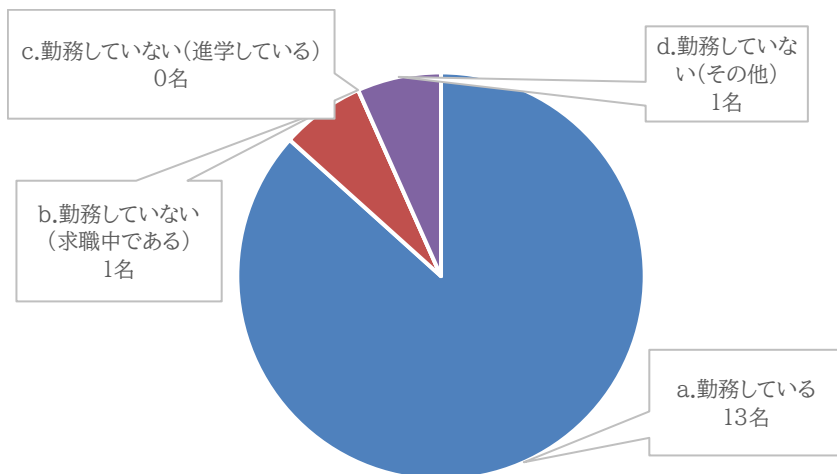
15名(回答率23.4%)

歯科技工士学科 6名(40%)、歯科衛生士学科 9名(60%)

男性 3名(20%)、女性 12名(80%)

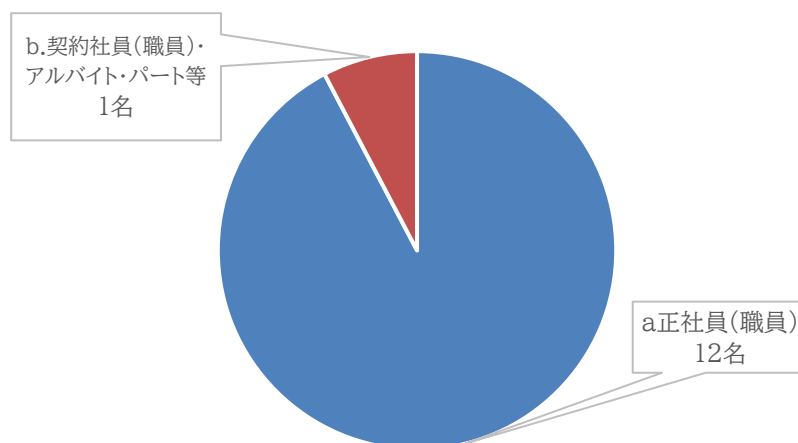
2.調査結果の要約

【現在の勤務状況】(n=15)



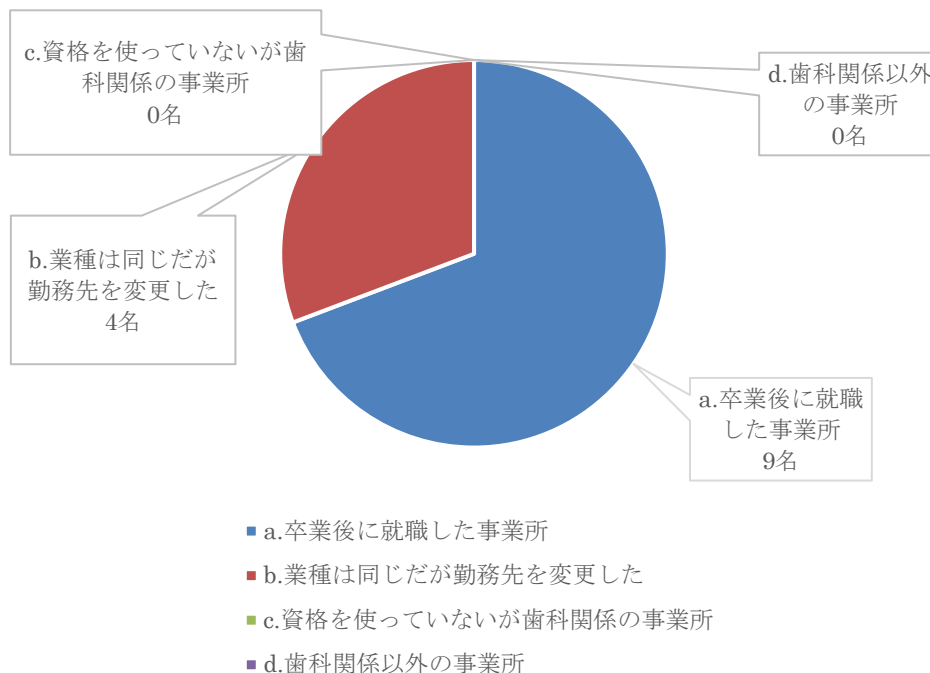
- a.勤務している
- b.勤務していない(求職中である)
- c.勤務していない(進学している)
- d.勤務していない(その他)

【現在の雇用形態】(n=13)

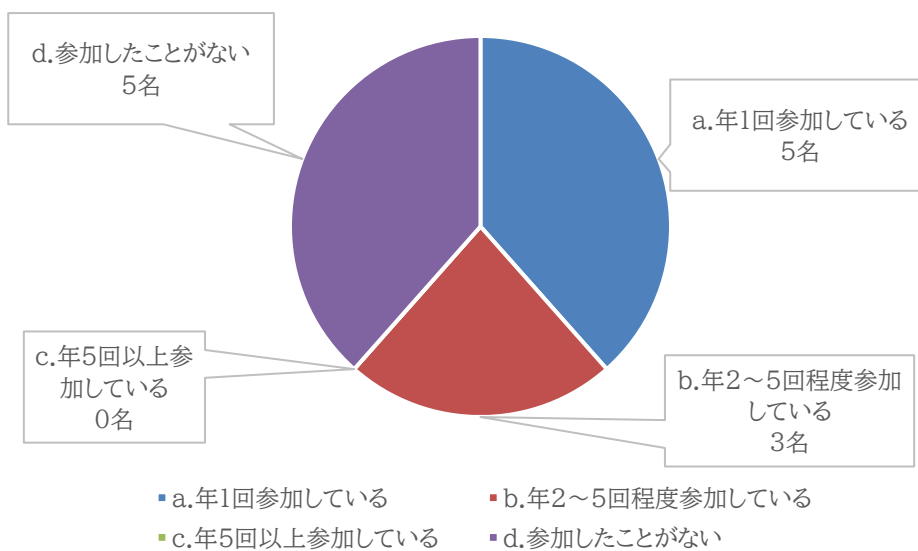


- a.正社員(職員)
- b.契約社員(職員)・アルバイト・パート等

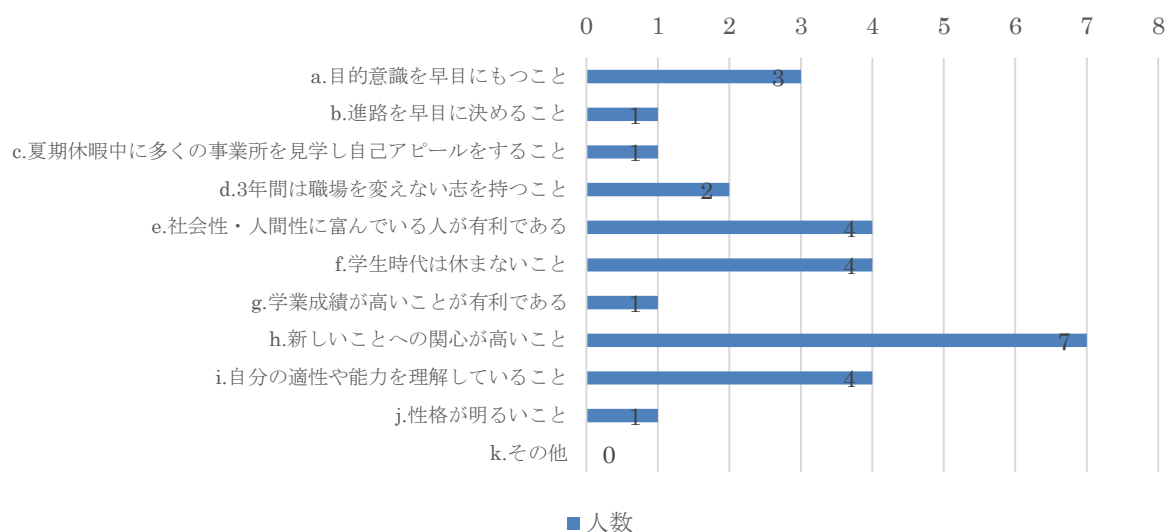
【勤務先の変更状況】(n=13)



【研修会等の参加状況】(n=13)



【明倫短期大学の後輩へ伝えたいこと】(複数回答項目)



3. 調査の概評

回答者のうち約87%が現在も歯科技工士、歯科衛生士として勤務しており、また、内約70%が卒業時と同じ就業場所にて勤務していた。短大卒業者の3年以内での離職率は41.4%(平成30年3月卒)であり、全国の平均数値よりも低い結果であり定着率の高さがうかがえた。

大学への要望として「最新の歯科医療技術に伴った知識・技術を培う教育」、「CAD関係の実習を増やしてほしい(歯科技工士学科)」、「超音波スケーラーの実習を増やしてほしい(歯科衛生士学科)」など、より実践的な技術修得に向けた教育への要望意見がみられた。本学は、この調査結果を踏まえ、今後、卒業生を中心とした実務者ニーズを適切に把握し、実習教育や卒後研修の充実に向けた取り組みや検討を進めたい。

以上